

平成30年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にす『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アシステンツァを実践する
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 創立者ドン・ボスコと共同創立者マリア・マザレロについての学び
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 咄嗟に備えた対応力の要請－臨場感のある実地訓練の実施
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 学園全体の教職員研修の実施
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 小学校ブランディングプロジェクトを推進する
 - ① ドン・ボスコの心による教育の実践
 - ② 幼・小ブランディングプロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化－教職員紹介ブックの作成
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ③ お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

| ア. 自己評価アンケート結果と分析 | イ. 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| <p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○建学の精神・教育理念に共感できる ○学校の行事が楽しい ○個人情報適切に扱っている ○教職員は気持ちの良い挨拶を行っている ○学校が楽しい (すべて満足度85%以上) <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を積極的に図っている ○幼小中高の連携が取れている ○進路指導の時期等が適切である | <p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成30年度学校評価に関する検討は令和元年5月28日（火）に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全般について 施設設備と行事について高い評価を得ているが、包括的満足度を示す項目の評価がやや下がっているのが気になる。例えば学級通信の頻度増、あるいはその内容として教育への取組みなど保護者の理解促進につながるようなものとする事によって適切な評価が得られるようになるのではないかと。 ○行事について 運動会等、学校行事のあり方についていくつかの意見が見られるため、将来に向けた検討を念入りに行うべきであろう。 ○教員体制について 教員の定着率や長年の経験を持つ教員の減少を懸念する声アンケートに見られる。質の高い教育内容が確立されているものの、子供達が信頼でき、尊敬できる教員がより多く存在することによって、今以上に充実した学校生活を送れるのではないかと。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------------------|---------------------------|---|---|--|
| 1 アッシステンツアを実践する | ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める | ア) ミッションスクールとしての意義をより強く認識する イ) ミッションスクールとしての特性を具現化する ウ) 保護者の理解度を向上させる | 学校評価アンケート結果を評価指標とし、それを踏まえて自己評価を実施することとする。 設問「建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「建学の精神および教育理念に共感できる」のA・B評価が90%以上。 設問「建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。 | ア) A・B評価 80.1%。ドンボスコの祝日に向けて、3日間の徳の花を実施。自発的な行動ができるように教員が具体的に検討を実施した。(○) イ) A・B評価 92.0%。約20分間の低学年の発表(ラウラ・ビクーニャ)をもとに各クラスで生活の中で生かせるよう話し合う時間をもつことができた。(◎) ウ) A・B評価 84.3%。ドン・ボスコ勉強会を7回実施した。(○) |
| 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する | 学齢に応じた安全教育を実施する | ア) 各学年にふさわしい安全教育を実施する イ) 危機管理研修を実施する ウ) 避難訓練を実施する | 設問「生活指導により、基本的な生活習慣が身に付いている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校の施設・設備は安全管理が行き届いている」のA・B評価が80%以上。 設問「保護者に対して緊急時の連絡体制を伝えている」のA・B評価が80%以上。 | ア) A・B評価 71.0%。特に下校時の児童の安全確保のため、下校指導の教員を増員した。今後も継続指導する。(△) イ) A・B評価 80.9%。今後に向けては、休憩時間や急な時間帯における避難訓練の実施を検討する。(○) ウ) A・B評価 84.0%。年度内に実施できなかったため来年度早期に計画し実行する。1月は阪神淡路大震災を心に留めておくための行事を企画していきたい。(○) |
| 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する | 教職員研修を実施する | ア) 「リスクマネジメント」に関する研修を実施する イ) 新任研修会を実施する | 設問「教職員は、社会人としての良識をわきまえた言動を実践している」のA・B評価が80%以上。 設問「教員は、十分な指導力を有している。」のA・B評価が80%以上。 | ア) A・B評価 72.9%。年度末会議の際に、教育相談や保護者初期対応について講話をいただいた。今後もこのような機会を充実させたい。(△) イ) A・B評価 66.3%。カトリックミッションである学校の意義、教材の研究の仕方や教授方法、学習時における児童理解等、よりいっそう細やかな指導体制を整える必要がある。(△) |
| | 児童に関する情報交換を実施する | ウ) 学年会、学年部会、職員会議等において日常的に情報交換を行う | 設問「教員間での連携が十分に図られている」のA・B評価が80%以上。 | ウ) A・B評価 71.6%。個々の児童の状況につき適切に把握するとともに、時系列での記録を残していくこと、さらには保護者への密な連絡を心掛けた。(△) |

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------------------------|---------------------|--|---|--|
| 4 小学校ブランディングプロジェクトを推進する | 城星小ブランド化プロジェクトを推進する | ア) 「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る イ) 学習習慣の定着を図る ウ) 学校行事の教育効果を高めるため工夫を継続する | 設問「子どもは、この学校が楽しいと言っている」のA・B評価が80%以上。 設問「家庭での学習を十分に行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校の行事が楽しい」のA・B評価が80%以上。 | ア) A・B評価 85.8%。休憩時間や放課後等に校舎内に残る児童に対するアッシステンツァを見直す。(○) イ) A・B評価 70.5%。低学年に比べると高学年の評価が低くなっているため、今後課題解決を図っていく。(△) ウ) A・B評価 90.1%。前年度より評価が高まった。保護者からの理解がよりいっそう得られるよう、教育効果等の説明を尽くす必要がある。(○) |
| 5 自然に挨拶が交わされる学園にする | 挨拶を励行する | ア) 教職員間で挨拶を励行する イ) 児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す ウ) 保護者とのコミュニケーションを充実させる | 設問「教職員は気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「礼儀、マナーが身に付いている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校は保護者に対して生活指導の方針の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。 | ア) A・B評価 86.4%。本学園教員としての礼儀、挨拶、マナー、言葉遣いができるように努めていく。(○) イ) A・B評価 65.8%。継続指導が必要である。具体的に児童がしやすいことを絞って、年間を通して指導する。(△) ウ) A・B評価 63.1%。子どもを取り巻く学校内外での諸問題について対処の方法などを詳しくお話しする機会も持ちたい。(△) |